

科目名	東アジア文化特殊研究	担当者	シミズ 清水 トオル 享	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	中国における文化人類学と歴史学の研究史について学ぶ。中国の文化人類学研究は漢族および「少数民族」についてその文化や社会を多角的に研究してきた。こうした中国の文化人類学研究のその蓄積と特徴について総合的に考察する。さらに長い歴史を持つとされる中国についての歴史的な視点を振り返り、それを整理し、把握する。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>中国における文化人類学および歴史学の研究史を把握する。中国の文化、社会、歴史のさまざまな研究の蓄積とその展開について把握・理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 “知識・解釈”</p> <p>本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>レポート1本あたり45時間(教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間、レポート推敲と最終稿完成15時間、教員の添削指導を含む)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。</p>		
スケジュール	<p>前期は基本教材1のレポート課題2編を9月17日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。</p> <p>後期は基本教材2のレポート課題2編を1月12日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。</p> <p>前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。
	観察記録	20%	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。
履修者への要望	履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして博士論文作成に取り組めるようにしてほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 瀬川昌久、西沢晴彦編訳 教材名： 『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年） ISBN4-89489-041-0 3,000円＋税 本教材は中国における文化人類学研究で重要であると考えられている論考をまとめたものである。ラドクリフ＝ブラウン、レイモンド・ファース、費孝通、マリノフスキー、フリードマン、スキナー、林耀華、エブリー、ワトソン、陳其南、ウォード、ハレルといった錚々とした先達の論考が掲載されている。
参考図書	末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年）ISBN978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 01 東アジア』（明石書店2005年）
履修上のポイント	全体を精読し、さらに各論考を通読すること。中国における文化人類学の研究の動向や問題点を全体的に把握し、漢民族研究、「少数民族」研究などの研究史を考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題 1	漢民族についての文化人類学研究史 留意点： 中国における漢民族研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。
レポート課題 2	「少数民族」についての文化人類学研究史 留意点： 中国における「少数民族」研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 礪波 護、岸本美緒、杉山正明 編 教材名： 『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会、2006年） ISBN978-4-8158-0527-2 3,800円＋税 本教材は中国の歴史研究の概要について広く、深くまとめたものである。2006年以降の研究成果については下記参考図書を参照すること。
参考図書	年一回発行される「〇〇年の歴史学界 回顧と展望」『史学雑誌』史学会
履修上のポイント	全体を通読し、中国における歴史研究の蓄積を知り、その上で履修者自身の関心がある箇所、あるいは履修者自身の研究に関わる部分を精読すること。そしてできるだけ多くの参考文献を参照しつつ、履修者自身の関心がある部分、あるいは履修者自身の研究に関わるものをテーマとして設定し、その研究史をまとめること。
レポート課題 1	中国における歴史研究の動向と課題について(その1) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題 2	中国における歴史研究の動向と課題について(その2) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(序論を読み込む)
第 3 回	教材の学修(I～IIのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第 4 回	教材の学修(III～IVのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(序論を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(I～IIのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(III～IVのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(序章、第 1 章～第 4 章を読み込む)
第 3 回	教材の学修(第 5 章～第 8 章を読み込む)
第 4 回	教材の学修(第 9 章～第 12 章および第 II 部を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(序章、第 1 章～第 4 章を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(第 5 章～第 8 章を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(第 9 章～第 12 章および第 II 部を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成